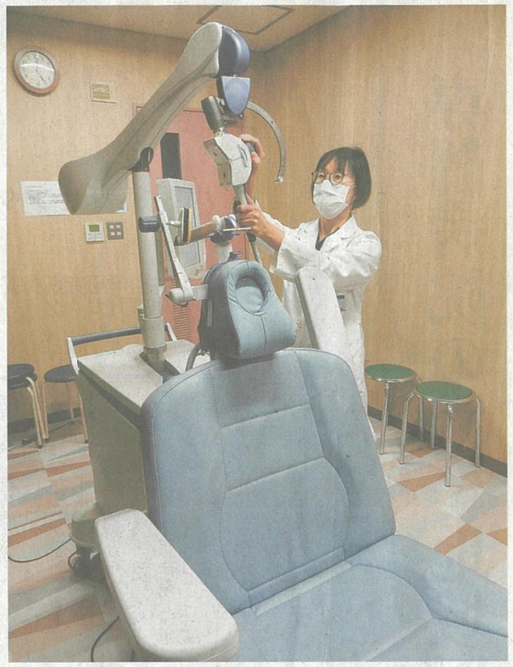
Medica
岡山医療健康ガイド

慈圭病院　難治性うつ病にｒＴＭＳ療法導入

脳の神経細胞に磁気刺激

慈圭病院（岡山市南区浦安本町）は、抗うつ薬が効かない難治性のうつ病に対し、磁気による刺激によって脳の神経細胞の働きを回復させる反復経頭蓋磁気刺激（ｒＴＭＳ）療法と呼ばれる治療をしている。導入後の２年間で７人に治療をし、４人は症状が改善、副作用もほとんどなく一定の成果を上げている。（二羽俊次）



ｒＴＭＳ療法で使う治療機器

うつ病は「気分の落ち込み」「興味・喜びの喪失」「体重の増減」「不眠または過眠」など九つの症状について評価し、五つを超えない程度に満たすと軽症、五つを大きく超えて満たし深刻な場合を重症、軽症と重症の間を中等症と診断する。ｒＴＭＳ療法は重症度が中等症以上で、薬物治療の効果が不十分だったり吐き気などの副作用が大きかったりする18歳以上が対象となる。

治療の原理は、コイルを頭の表面に置き電流を流すことで、脳の左前頭前野という部位の表面に磁場を発生させることで渦電流を起こし、脳の神経細胞を刺激する。１回の治療時間は40分。10㌹の刺激を４秒間、インターバルを26秒間とし、計３千回刺激する。１日１回ずつ週５日のペースで15～30回行う。

回数に幅があるのは15回の時点で成果を評価し、効果が見られない場合と顕著な成果が得られた場合はいずれも中止し、ある程度の効果が認められれば30回を限度に継続するためだ。安全性が高く、副作用もほとんどない。治療開始時は頭部の痛みを訴える人もいるが、ほとんどは徐々に苦痛が和らぐという。

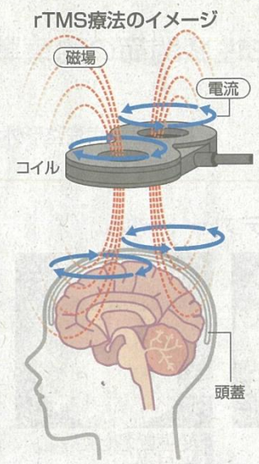
米国で２００８年に導入。国内では17年に薬事承認され、19年に保険適用された。慈圭病院は、国内の治療成績を見極めた上で23年３月、岡山県内で初めて保険診療を開始した。

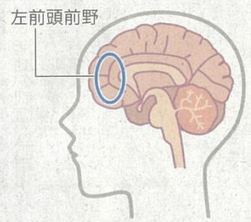
患者は30～60代の７人（男性４人、女性３人）。６人は岡山県内、１人は四国の在住者。「顕著な効果があった」「少し効果があった」が２人ずつで、いずれも症状の改善を自覚できた。「ほとんど効果がなかった」も２人。１人は頭皮痛を理由に途中で治療をやめた。

顕著な効果があったうちの１人は、うつ状態が数年間続き、朝起きられず入浴や歯磨きもできず、悲観的な考えにとらわれていた。しかし、治療により「無気力感がなくなり、すっきりした」と言う。他の患者からも「意欲や気分の変化の波が小さくなった」「よく眠れるようになった」との感想が聞かれた。

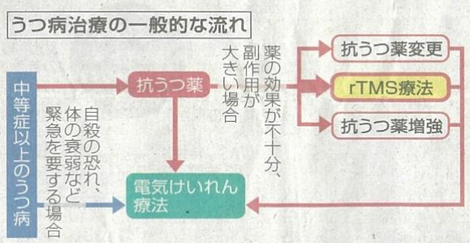
日本精神神経学会などによると、抗うつ薬が効くのは全体の60～70％程度にすぎず、ｒＴＭＳ療法は抗うつ薬の効果が十分に発揮されない「治療抵抗性うつ病」の人が対象になる。治療抵抗性うつ病の40～50％に有効性があるといわれており、同院は「治療実績はまだ少ないものの、今のところ、学会が公表しているのと同等の成果が現れているといえる」とする。治療後、１年以内の再発率は10～30％と推計されており、同院は今後、患者の経過をフォローしていきたい考えだ。

また、効果が現れるのに一定の日数を要するため、自殺願望が強いなど緊急的な対応が求められる場合はｒＴＭＳ療法ではなく、従来から普及しており即効性のある電気けいれん療法（ＥＣＴ）が行われる。





中等症以上対象　安全性高く、一定の成果



ズーム

うつ病　うつ病患者は国内に100万人以上おり、生涯のうちに10～15人に１人が経験するとされている。遺伝的要因に加えて、心理的ストレスや過労や妊娠、身体疾患、アルコールなどによる要因が関与して発症すると考えられている。原因は、脳内の神経伝達物質であるセロトニンやノルアドレナリンが減少しているという説、神経栄養因子が減ることで神経新生などが減少しているという説、炎症性サイトカインなどの過活動という説などがあるが、十分に解明されていない。

難波多鶴子副院長に聞く

急に改善することも、諦めないで

うつ病は誰もが経験する可能性のある身近な病気だ。とはいえ、薬物治療だけでは十分な効果が得られないこともある。心身の不調に苦しんでいる患者に対し、ｒＴＭＳ療法を担当する難波多鶴子副院長は「精神疾患はなかなか治療効果が現れなくても、何かのきっかけで急に改善することがある。治療を諦めないで」と呼びかける。

―薬物治療の効果は。

処方できる薬は30種類近くあり、うつ病の症状はもちろん、不安やいら立ち、食欲減退、不眠などその人の症状を総合的に診て薬を選択する。第１選択薬を４～６週間飲んでもらい、効果の有無を確認する。第１選択薬の効果があるのは全体の６、７割。効果が不十分なため薬を変えて一定の成果が現れることも少なくないが、最終的に全体の２～３割ほどは難治性のうつ病と闘っている。こうした方にｒＴＭＳ療法が選択肢となる。

―ｒＴＭＳ療法は全国的に普及しているのか。

専用機器を入れ治療を実施しているのは全国で78施設。岡山県内で保険診療しているのは当院だけ。全国でも年間５００人程度しか治療が行われていない。開業医とも連携し、治療の裾野をもっと広げなければと考えている。治療を希望する方はまず主治医とよく相談してほしい。

―ｒＴＭＳ療法でも効果が上がらない場合はどんな治療をするか。

薬を変えながら薬物療法を続けるとともに、認知行動療法などを行う。ストレスを感じると物事を悲観的、否定的に考えがちになって問題を解決できない状態に追い込まれるが、認知行動療法では、考え方のバランスを取ってストレスに上手に対応できるようにする。当院も医師、心理士ら専門スタッフが寄り添い、実践している。こうした治療を続けることで目に見えて改善する人もいる。どんな患者さんも諦めずに治療を続けてほしい。